

■高校野球のケーススタディー（第31回）■



一般財団法人兵庫県高等学校野球連盟

高校野球における公式試合や練習試合の中で生じたプレイの中で、“こんなプレイ、ルールではどうなるの？”といった疑問について、ルールの側面から解説します。

○ 2023年度の高校野球特別規則の改正（控え投手および既に試合に出場している投手の取り扱い）

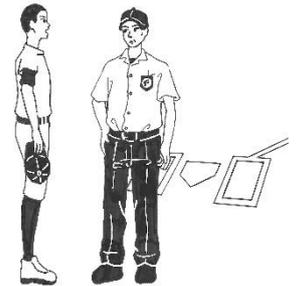
7回表、インニングの初めにそれまで出場していた投手がマウンドに上がり、準備投球を始めました。そのとき、守備側のベンチからマウンドの投手に向かって、「投手交代！」という声が聞こえてきました。通告のため、伝令の選手も球審のところに来て投手の交代を伝えています。さて、このケース、すでに出場していた投手がマウンドに上がっていますが、この時点で投手交代はできるのでしょうか。

[高校野球のケーススタディー第15回より]

これは第15回で取り上げたテーマです。今年度、この事例に関係する「高校野球特別規則12」が全文改正され、投手交代の基準が明確に定められました。

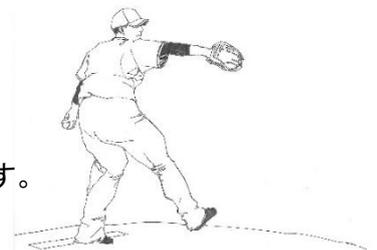
【高校野球特別規則12 控え投手および既に試合に出場している投手の取り扱い】

控え投手が交代と思い誤って投手板に着いた場合や、投手が打者あるいは走者で前のインニングが終了し、ダッグアウトに戻らずにマウンドに向かい、投手板に着いた場合は、**準備投球を始めれば**、第1打者がアウトになるか、あるいは一塁に達するまで投球する義務がある。ただし、その打者に代打者が出た場合、またはその投手が負傷または病気のために、投球が不可能になったと球審が認めた場合は除く。



この事例において新ルールでは、**投手が、投手板に着き準備投球を開始した時点で投手交代の時期が決まると**されました。そのため、上記のケースは、**守備側チームの意向に反して投手交代は認められません**。例えば、7回終了後、8回から先発投手（#1）から控え投手へ（#10）へ交代を考えていた場合。

- ① 先発投手（#1）が誤ってマウンドに上がり、準備投球を開始した場合
⇒ 第1打者への投球が完了するまで交代できません。
- ② 先発投手（#1）を続投させようと考え直したが、控え投手（#10）がマウンドに上がり準備投球を開始した場合 ⇒ 控え投手（#10）が正規の投手となるため、出場していた先発投手（#1）が試合から退くことになります。



【チームへのアドバイス】

◎今一度、投手交代のルールを熟知し、ベンチ内でも連携を取った情報共有を図って試合に臨んでください。

【審判員へのアドバイス】

◎ファウルラインを越えてくる投手に日頃から注意を払い、投手がマウンドに上がる際は、誤った投手交代を防ぐため、**投手交代の通告や投手の動き**を十分に観察することが従来に増して求められます。投手交代の増えている昨今、頻度の高いケースと考えます。オープン戦からインニング間の選手動向について意識を向け、このケースに遭遇した場合には両チームに本規則を説明し、**公式戦で起きないように未然に防いでいきましょう**。

表題デザイン・イラスト協力：兵庫県立姫路工業高等学校デザイン科

表題デザイン：中川 早紀さん（74回生）

イラスト：中安 慶さん（3年） 万壽本 怜耶さん（3年）